



# 亀っ子だより

第33号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2021年1月8日

## 2学期終業式 校長の話

8月22日から始まった、いつもより10日長い2学期、私にはとても長い2学期に感じられました。きっと私よりみなさんや担任の先生たちの方が大変だったと思います。この2学期、よく頑張りました。

この2学期を振り返ってみると、できずに我慢させてきたことと、新しく生み出してきたことがありました。放課のドッチボールやサッカー、朝や音楽の時間の歌、給食の時間のおしゃべり、全校集会など、みなさんが楽しみにしていたいくつものことを我慢させてきました。しかし、この我慢や、手洗い、マスクがみなさんを守り、この2学期、健康に過ごすことができたと思っています。本当によく頑張ったと思います。そして、先生方、ありがとうございました。

一方、「かめっ子スポーツデイ」や「ペアでいっしょにっこりタイム」をみなさんと先生たちとが、力を合わせて生み出してきました。この状況の中でとても立派だったと思います。

さて、先日「ペアでいっしょにっこりタイム」を1年生と6年生が行っている様子を見学した時に感じたことがありました。それは、1年生のみんながお兄さんやお姉さんに囲まれてとても楽しそうにしていたこと、6年生のお兄さんやお姉さんが本当に優しくしたこと。人というものは、人と人との関わりの中でたくさんのことを学ぶのだな、大きくなっていくのだなとつくづく思いました。特に年齢が違う人、年下の子、年上のお兄さん、お姉さん、先生や地域の人などの大人と関わるることによってみんなは、大きく成長するのと思っています。そこで、この冬休みの宿題を私から出します。それは、多くの人と関わることです。年下の子や年上のお兄さんお姉さん、親戚のおじさんやおばさんとたくさんお手伝いをしましょう。遊びましょう。それが宿題です。そして、一番多くの時間を過ごしてほしいのは、お父さんやお母さん、兄弟やおじいちゃんおばあちゃんなど、お家の人です。一緒に大掃除をしたり、買い物に行ったり、ゲームをしたり、楽しい時間をお家の人と過ごしてください。それが宿題です。多くの人との関わりの中で、きっと、みなさんは成長し、3学期に一回りも二回りも大きくなった姿を見せてくれるものと思っています。

そして、最後にいつもの宿題をも出しておきます。この冬休み、大きな病気をすることなく、大きな怪我をすることなく、決して交通事故に遭わず、1月7日、亀崎小学校で担任の先生と校長先生と元気に挨拶を交わすことが大切な宿題です。

健康に気をつけ、楽しく健康的な冬休みを過ごしてください。

## 3学期始業式 校長の話

みなさん、明けましておめでとうございます。この冬休み中、大きな病気をしたという人、大きなけがをしたという人、交通事故にあったという人の報告は、校長先生に届いていません。2学期終業式で出した宿題を、みなさんがきちんとやってくれたことをとてもうれしく思います。また新型コロナウイルスの心配は依然、なくなっていない。自分を守るため、家族を守るため、学校の友達や先生を守るために、水は冷たいですがみんなで手洗い、マスク着用、毎朝の体温測定、密を避けることを心がけ、給食の時のおしゃべりを我慢します。3学期、決して緩めないようにしていきます。みんなで力を合わせていきましょう。

さて、今、みなさんの教室の前に、どんな言葉が掲げられていますか。

なかよく げんきに がんばるる子  
責任・傾聴・熟考 最大ちりつも ちりつも 成長  
やればできる スマイル 一致団結  
おもいやり おにぎり きずな  
たいやき ワンチーム ひまわり  
自分のことがしっかりできる子 大切  
なかよく 元気な子



これは、クラスみんなの目標として1年間、大切にしようと思った言葉だと思います。その言葉をこの3学期、大切に、大切に過ごしてください。なぜならば、3学期は、学習のまとめの学期ですが、学級目標にどれだけ近づけたかをまとめる学期でもあると思うからです。3学期を何となく過ごすのではなく、「今日も学級目標を大切にできたかな」と毎日振り返ってください。そこにはきっと、皆さんの成長があるはずです。このことは、昨年の3学期始業式にも言いました。みなさんが大切にしようとして決めた学級目標、最後まで大切に、このクラスの友だちと出会えて、担任の先生と出会えて良かったと思える3学期にしてください。

それでは、この3学期、5年生は野外活動に、6年生は修学旅行に行きます。そして、感謝の会、6年生を送る会、卒業式、修了式など、大切な会がいくつもあります。毎日の学習に一生懸命に取り組むことはもちろん、これらの学校行事に丁寧に取り組み、みなさんの成長につなげていってください。充実した3学期にしましょう。

## ♣ 子育てアラカルト ♣

[わかってますか?]

小学5年生の子どもに質問しました。自分のことでお母さんが知っていることはどれ?

① 友達のこと ② 成績のこと ③ 悩み ④ 夢や希望

80%の子どもが「お母さんは『② 成績』のことはよく知っている」と答えた。

ちなみに、『③ 悩み』を父親が知っていると言った子どもは、わずか7%だった。母親が知っているも16%だった。

成績も大事だが、子どもの悩みはそれ以上に大事なことだ。

普段から子どもの話を聞いていけば、こんな数字にはならないはずだが・・・。

子どもの成績はもちろん、友達のこと、悩みも、子どもの夢や希望もちゃんと知っている母親、父親でありたいものだ。

[AならばBと言え]

子どもには直接いっても伝わらないことがある。

〈エピソード〉

親子キャンプで子どもたちが鍋と飯ごうを洗っている。

口は動いているが手の方はお留守だ。たまりかねたお母さん方がもっと真剣に洗いなさいと声をかける。だが、子どもたちに変化はない。

そこにいた先生が一言。

「鍋を磨く音がここまで聞こえるようにやっごらん」

子どもたちは一斉に手を動かし始めた。

【心に刻む言葉】 問題は向こうにはない。常にこちらにある。

100%正しいことは、まず役に立たない。

(ある教育者のひとり言 より)